

斜里の所在不明な植物たち

斜里の植物をいろいろ調べていると、「昔はアソコにアレがたくさんあったんだ」という貴重な話をうかがうことがよくあります。ところがいま探してみるとなかなか見つかりません。多くは、昔とは環境がすっかりかわってしまったのが原因です。しかし広い斜里町のどこかには、まだ生き延びているのではないかと諦めずに探している植物がいくつもあります。今回は噂は耳にしつつもなかなかお目にかかれない斜里の植物を紹介します。

クリンソウ 沢の水辺でみられるサクラソウの仲間、濃いピンク色の花が咲かせます。膝丈くらいになり、葉も大きいので頑丈そうに見えます。斜里町の豊里から来運にかけては沢沿いに群生していた、とききます。6月になると沢全体がクリンソウのピンク色で埋めつくされるように咲いたと伝えられています。

残念ながら現在はそのような光景はみられないようです。教えていただいた沢はみな様々な手を加えられており、いまとなっては庭に移してあったものが何株か残るのみとなっていました。ところが今年になって2株の野生のクリンソウが見つかりました。やはり昔は群生していたところで、現在は埋められて道路になっていた場所です。すでに水の流れは絶えて久しく、この株も周辺の林の乾燥化にともなって近いうちに見られなくなるのでしょうか。

三井、富士、豊里の沢や側溝にはまだ生育地が残っている可能性があります。今後も探索をつづけるつもりです。

エゾムラサキツツジ 岩地でみられる「網走にあってなんで斜里にないのか」といつも思う植物です。やはり昔は山にあった、という話をたまに耳にします。現在斜里の山でみられるツツジの仲間、花が大型のものといえばハクサンシャクナゲとキバナシャクナゲくらいですので、これと見間違えることはないでしょう。ただ、このツツジは園芸的価値の高さにより山から下ろされることが多い植物です。今も生存しているとしても、簡単にたどりつける場所には残っていないことが予想されます。

チョウノスケソウ 高山帯でみられる矮性低木で、雰囲気はチングルマに似ていますが花卉の枚数が多く、葉は小判のような形をしています。園芸的価値が高く、里に下ろされることが多い植物です。文献上は斜里岳に記録があり、小海別岳にもあったと聞きます。残念ながら斜里岳では近年の観察はありませんし、小海別からは「昔、山から下ろしてきた」という

話しか聞かず、やはり近年の観察例はありません。ちなみに、庭では案外増えるということです。斜里岳は他にもムシトリスミレ、シャリコザクラなど現在の情報が極端に少ない植物の記録もあり、高山帯を精査する必要があると考えています。

カタクリ これも分布域から考えるとあってもおかしくない、でも見かけない植物です。ときどき「昔はたまにあった」との情報をいただきます。花の大きさ、形、ともに見間違えようのない植物ですので、確かに昔はあったのだと思います。エゾノリュウキンカの黄色、エゾエンゴサクの青色、これにカタクリの赤色加わる道央の春の風景がそのまま斜里でも見られるとは思いますが、どこか確実な産地がみつからないかといつも思います。

(内田暁友)



クリンソウ

編集後記●町内の中学1年生を対象に、世界遺産体験学習が始まりました●博物館の学芸員をはじめ地元の専門家の指導で「知床」を体感中です●その様子は後日、詳しくご報告いたします●今年度の会員証は、例年通り絵本作家あかしのぶさんのイラストで「オオバナノエンレイソウとエゾシカ」です●博物館窓口担当は、昨年10月より勤務の伊藤智子さん（斜里町出身）と、この7月から勤務の神戸出身 溝端ゆりかさんの二人になります●よろしくお願いいたします。（ひら）